

ラサール訳《嘉音遵囑吡菩薩之語》における

並列関係を示す連詞の用法について

永井 崇弘

はじめに

《嘉音遵囑吡菩薩之語》はラサール¹⁾ (Joannes Lassar) による新約聖書のマタイの福音書の中国語訳で、プロテスタント系の漢訳聖書として初めて単巻としてまとまったものである。その漢訳は非中国語圏のインドの地で行われた。ラサールはカルカッタの北にあるセランポール (Serampore) で参照する漢訳聖書がない状態から漢訳に着手し、試行錯誤しながら作業をすすめた。ラサールは漢訳に際し、キリスト教用語については仏教用語の借用を行い、文体については文言を主体にしつつも口語要素として広東語の語彙を混入させながら漢訳文を完成させた。本稿ではこれまでの研究成果をふまえながら、ラサールによる《嘉音遵囑吡菩薩之語》の漢訳文について、並列を示す連詞に焦点をあてて、その用法と特徴を明らかにし、最早期のプロテスタント系漢訳聖書である《嘉音遵囑吡菩薩之語》とラサールの中国語の全体像の解明につなげたい。

1. ラサール訳《嘉音遵囑吡菩薩之語》について

鈔本であるラサール訳《嘉音遵囑吡菩薩之語》は、英国ロンドンにあるランベス・パレス図書館 (Lambeth Palace Library) でその所蔵が確認されている。ランベス・パレス図書館とは、イングランド国教会カンタベリー大主教のロンドンにおける公邸の敷地内にある図書館で、1610年にリチャード・バンクcroft (Richard Bancroft, 1544-1610, 大主教在位1604-1610) 大主教によって公共図書館として設置されたものである。同図書館はイングランド教会に関連する文献を中心に、古くは9世紀のラテン語と古アイルランド語で記されたポケット版の福音書『*The MacDurnan Gospels*』をはじめ、数多くの稀覯本を所蔵している。論者がランベス・パレス図書館で確認した漢訳聖書としては、本論でとりあげる《嘉音遵囑吡菩薩之語》のほか、1857年版のメドハースト・ストロナックによる南京官話

訳《新約全書》、文理代表訳の 1855 年版《新約全書》(江蘇松江上海墨海書館印) と数は多くない。

この《嘉音遵囑吽菩薩之語》が、ロンドンのランベス・パレス図書館に所蔵されることになった経緯については、漢訳本文の前頁にあるブキャナン (Claudius Buchanan, 1766-1815) による書き込みが手掛かりとなる。そこには、ラサールに漢訳を依頼したイングランド国教会により設立された英国教会伝道協会 (Church Mission Society) の宣教師であったブキャナンが、1807 年 5 月 4 日にインドのカルカッタからランベス・パレス内にあるランベス・パレス図書館に寄贈する旨が記されている。漢訳者のラサールは澳門で生まれ育ったアルメニア人キリスト者で、幼少より中国語に精通し、英語にも通じていたとされている。ラサールは茶葉の貿易に従事するためにインドに渡るが、茶葉の暴落により事業が行き詰ってしまふ。1800 年にフォート・ウィリアム・カレッジ (Fort William College) がカルカッタで開校するが、同校では当初中国語の教授も行う計画で、その教員としてラサールが就任する予定であった。しかし、予算的な問題から最終的にはカレッジにおける中国語の課程の設置は取りやめとなった。そしてラサールはセランポールに移り、宣教師のブキャナンに雇われて聖書の漢訳を行うこととなった。

このような経緯によって鈔本として完成した《嘉音遵囑吽菩薩之語》は、John R. Hyke-s1916 によると翌年の 1808 年には刊本として同じくセランポールで出版されたとされている²⁾。しかし現在のところ、その現存は確認されていない。このランベス・パレス図書館に所蔵されている《嘉音遵囑吽菩薩之語》の影印本文は、永井・塩山 2021 において、そのテキストの翻刻とともに紹介されている。

2. これまでの《嘉音遵囑吽菩薩之語》研究について

このプロテスタント系漢訳聖書として最早期の翻訳である《嘉音遵囑吽菩薩之語》の漢訳本文は、ラサールがインドという非中国語圏において、ゼロから訳語と訳文を構築した軌跡を示している。これまでの研究として、永井 2020 ではその底本についての考察が行われ、これまでアルメニア語から漢訳されたと考えられていたが、英語欽定訳もかなり参照されていることが明らかにされた。また永井 2021a では、ラサールが《嘉音遵囑吽菩薩之語》の漢訳を行う際に創り出した 46 字の未見漢字について考察が加えられ、46 字のうちの 38 字、約 83% が既存の漢字に口偏を付したもので、それらはすべて音訳語に使用されていること、さらにこれらの未見漢字は、マーシュマン (Joshua Marshman, 1768-1837) が加わって 1810

年に出版された《此嘉音由啣嘯所著》では14字が継承され、1822年のマーシュマン・ラサール訳ではその14字を含む46字の未見漢字すべてが継承されていないことが判明した。さらに永井2021bでは、ラサール訳《嘉音遵囑嘑菩薩之語》の漢訳本文におけるキリスト教用語についての考察が行われ、キリスト教用語のほとんどを占める90%が意識型で、音訳型は約9%、音訳+意識型に至っては約1%しかないことが確認され、大多数を占める意識語は中国の土着の宗教用語も含め、ほとんどが既存の中国語語彙から借用されたものということが明らかとなった。なお、既存語彙からの借用が難しい用語について、ラサールは「下水」(βάπτισμα, バプテスマ、洗礼)のように新たに意識語を造語して対応していることも確認できた。一方、音訳語については、「紗啣啞啞」(συνέδριον, サンヘドリン)のようにギリシア語由来の訳語も見られたが、おおよそ英語欽定訳から訳出されていることが明らかとなった。しかし、これらのラサールによるキリスト教用語の訳語は、おおよそ1810年のマーシュマン・ラサール訳の《此嘉音由啣嘯所著》までしか継承されず、1822年にマーシュマンとともに完成させた《聖經》では全く採用されることはなかった。そこでは、1814年のモリソン訳《新遺詔書》とその基となるバセ訳《四史攷編》の訳語が採用されていた。これらのほかに、永井・塩山2021では《嘉音遵囑嘑菩薩之語》の本文の影印の紹介が行われるとともに、その漢訳本文の大きな特徴といえる人名および地名を中心とした音訳語の考察も行われ、それらがおおよそ英語欽定訳に由来していることが判明している。

これらの翻訳背景や底本、訳語の研究に加え、永井2022では文法的観点からの考察が行われた。口語を代表する標識である「的」と「了」の考察に焦点をあてて、ラサールがどのような文体で《嘉音遵囑嘑菩薩之語》を漢訳したのかを明らかにしたものである。永井2022によって、《嘉音遵囑嘑菩薩之語》が文言に口語が混入した文体であることが確認されたとともに、この口語成分の「的」と「了」が方言の広東語に由来していることが明らかとなった。本論では、さらに並列を示す連詞という文法的観点からの考察を通じてその用法の特徴を明らかにし、ラサールの中国語の解明に役立てたい。

3. ラサール訳《嘉音遵囑嘑菩薩之語》における並列を示す連詞

《嘉音遵囑嘑菩薩之語》の漢訳本文において、並列を示す連詞として使用されているのは、「兼」、「及」、「與」、「並」、「又」の5種である。このうち「兼」は146例で全体の約91%とほとんどを占め、そのほか「及」は8例で5%、「與」は3例で約2%、「並」は2例で約1%、「又」は1例で約1%をそれぞれ占めている。以下に各連詞について例を挙げ

ながら考察を行うが、「KJV」は英語欽定訳を示し、「聖經」は1822年のマーシュマン・ラサール訳《聖經》を示す。

3.1. 「兼」

3.1.1. 第1連詞としての「兼」

《嘉音遵囑嘯菩薩之語》では、2項目または2項目以上の並列において、1つ目の連詞(第1連詞)として「兼」を用いているのが、全連詞146例のうち139例で約95%を占めている。

- (1) 又鬼帶他于巍峩山上而開他通天下之王都兼他等之儀衛也(マタ4:8)

KJV: Again, the devil taketh him up into an exceeding high mountain, and sheweth him all the kingdoms of the world, and the glory of them;

聖經: 嘯咄復帶其上至高之山・示之看世間諸國與諸國之榮。

- (2) 六日之後意嘯惟帶嘔嘯嘯啞啞兼咽之兄而上巍峩山矣(マタ17:1)

KJV: And after six days Jesus taketh Peter, James, and John his brother, and bringeth them up into an high mountain apart,

聖經: 過六日耶穌取彼多羅牙可百及厥昆若翰而帶伊等上高山。

- (3) 我是亞吧嘯喊兼意嘔啞哈啞之神非是尸之神也惟生矣(マタ22:32)

KJV: I am the God of Abraham, and the God of Isaac, and the God of Jacob? God is not the God of the dead, but of the living.

聖經: 我乃亞巴拉罕之神・以撒革之神・牙可百之神也。神非死者之神・乃活者之神也。

例(1)は「天下之王都」と「他等之儀衛」の2項目の並列における連詞「兼」の用例で、《聖經》では「與」が用いられている。例(2)と(3)は3項目の並列であるが、1つの連詞のみを使用して並列を示している例である。例(2)では「2項目(嘔嘯嘯と啞啞) + 1項目(咽之兄)」の組合せで、例(3)は「1項目(亞吧嘯喊) + 2項目(意嘔と啞哈啞)」の組合せである。例(2)は英語欽定訳の「2項目(PeterとJames) + 接続詞 + 1項目(John his

brother)」に対応しているが、例(3)は「1 項目 (the God of Abraham) + 接続詞 + 1 項目 (the God of Isaac) + 接続詞 + 1 項目 (the God of Jacob)」となっており異なる訳出法を採用している。また例(2)の「2 項目 + 1 項目」は 1822 年の《聖經》と一致しているが、例(3)では《聖經》は連詞を使用せずに「・」で並列を示している。つまり、3 項目の並列の場合、「2 項目 + 1 項目」か「1 項目 + 2 項目」かは、ラサールの中国語では統一した使い方はないと言える。

その一方、牛島 1971 では中古期の主な連詞として「與、及、並」が挙げられており、「兼」は見られない³⁹。太田 1988 でも名詞の並列として使用される連詞は、上古期では「與」が多く、「及」も時として用いられるとあり、「兼」は見られない⁴⁰。これは歴代の中国における虚字に関する文献でも裏付けられる。清代の《虚字説》、《助字辨略》、《經傳釋詞》、《助語辭補》にも清末の《馬氏文通》にも、さらに民国期の《詞詮》、現代の《文言虚字》でも「兼」への言及は見られない。しかし、《嘉音遵嘯咄菩薩之語》では「兼」の使用がほとんどを占めており、残りの「及」、「與」、「並」、「又」の 4 種はすべて合わせても 1 割程度と少ない。最早期に渡華したプロテスタント系宣教師のモリソンが聖書漢訳の理想的な文体と考えた旧白話小説の《三国演义》では、「兼」字は 73 例を確認できるが、並列を示す連詞「兼」の可能性があるのは以下の 1 例のみである。

令掌六郡八十一州兼荆楚诸路军马。(第 83 回)

ここは、「六郡八十一州と荆楚諸路軍馬を宰領するよう命じた」という箇所であるが、この他には並列を示している連詞の「兼」は確認できない。つまり、《嘉音遵嘯咄菩薩之語》における並列を示す連詞「兼」は、用例数の多さから見て旧白話小説の影響によるものでもないと言える。

プロテスタント系の英華字典における「and」の訳語で並列の連詞となりうるものは、R. Morrison 1822 では「並、又、及」で、S. W. Williams 1844 でも「並、及」で、「兼」は見られない。しかし W. H. Medhurst 1847 では「及、兼、又、併、並、與」と「兼」が見られるが、例文では、「富與貴是人之所欲也」と「與」が用いられている。さらに Lobscheid 1866 でも「及、並、併、兼、又、與」と「兼」が見られるが、例文では「你及我」と「及」が使われている。

プロテスタント系宣教師による文法書として最早期の Robert Morrison 1815 の

「Conjunctions」では、並列を示す「and」に相当するものとして「及、並」があり、「他及他的兄弟在城裏居住」と「這個並那個爲他所造的」の例文が示され、「兼」は見られない。さらにラサールから中国語を学んだ宣教師のマーシュマンが著した文法書 J. Marshm-an 1814 の「The Conjunctions」の項目では、連詞を「Subjunctive」と「Copulative」、「Continuative」、「Disjunctive」の4種類に分類している。「Copulatives」の連詞のなかで並列を示すものとしては、「予及汝」(I and thou)と「女與回也孰愈」(Thou and Hooi, who excels?)が例示されているように、「及」と「與」であることが分かる。「兼」については、「Copulatives」の6つ目の連詞として言及され、「請給紙筆兼之書人」(Be pleased to favour me with paper, a pen, and also a writer.)の例文が示されているが、これは並列というよりも累加・添加 (and also) を示している。このように、「兼」を並列の連詞として用いた例は見られないが、少なくともマーシュマンが「兼」を「Copulative」の連詞の一つとして認識していたということは言える。また、永井 2022 は、ラサールが《嘉音遵嘯嘯菩薩之語》の漢訳本文に広東語の語彙を混入させていることを指摘している。それゆえ、ここでは「兼」の広東語の可能性について確認しておきたい。R. Morrison 1828 では「與」が「PAN-KAK-LUY-YAT」の項目にある文として、「上知與下愚不移 (Superior knowledge, and extreme stupidity are incapable of alteration.)」が挙げられている。広東語訳のマルコの福音書である 1899 年の《馬可福音中西字》では「及」を主として、「與及」も使用され、「共」はマコ 6:38 の 1 箇所のみで見られる。1931 年の《新約全書中西字》の「馬可福音」では「共」と主とし、「與及」も使用され、「及」はマコ 14:55 とマコ 15:1 の 2 箇所のみとなっている。つまり、広東語の並列を示す連詞は「與」、「及」、「共」、「與及」であり、《嘉音遵嘯嘯菩薩之語》で多用されている「兼」は広東語に由来するものではないと言える。また、後述する連詞「及」と「與」も広東語に見られるが、牛島 1971 や太田 1988 では上古・中古期を代表する連詞としている⁹⁾。つまり《嘉音遵嘯嘯菩薩之語》で約 91% を占める「兼」が広東語の連詞でないことから、「及」と「與」も「兼」と同じく文言の連詞であるとするのが妥当である。

3.1.2. 複数の連詞の使用における第2連詞としての「兼」

《嘉音遵嘯嘯菩薩之語》では、3項目以上の並列を漢訳する場合、2つ目に使用する連詞としても「兼」が用いられている例が6節に見られる。

- (1) 而不可由我等爲邪色然救我等于匪事緣是爾之王都兼權柄兼爾之威名于窮世也啞囀（マタ 6:13）

KJV: And lead us not into temptation, but deliver us from evil: For thine is the kingdom, and the power, and the glory, for ever. Amen.

聖經: 勿由吾等人誘惑・乃救吾等出兇惡。盖爾爲之國者・權者・榮者・於世世啞囀。

- (2) 然會齊禪師兼儒子者兼耆民于架意咤時僧綱之屋（マタ 26:3）

KJV: Then assembled together the chief priests, and the scribes, and the elders of the people, unto the palace of the high priest, who was called Caiaphas,

聖經: 時祭者首輩與書士輩及民之老者集會在崇祭者名加以法之堂。

- (3) 爾等去之而教誨于總國人而下水於等舉父名兼子名兼神魂也（マタ 28:19）

KJV: Go ye therefore, and teach all nations, baptizing them in the name of the Father, and of the Son, and of the Holy Ghost:

聖經: 故爾往去教訓萬國・施蘸伊等于父者子者及聖風者之名也・

例(1)～(3)から、いずれも2つ目に連詞「兼」が使用されていることが確認できるが、最初に用いられている連詞も「兼」であることが重要である。同様の現象はこの3例のほかに、マタ 11:19、13:55、23:34でも確認できる。つまり、ラサールは1つ目に「兼」以外の連詞を用いる場合、2つ目に「兼」を用いる可能性はないということである。また、1822年の《聖經》は、例(1)では「・」で訳出し、例(2)では最初に「與」を用い、2つ目に「及」を用いて訳出している。さらに例(3)では、《聖經》は3項目の並列に「及」の連詞一つを用いて訳出しているが、これは英語欽定訳とは大きく異なっている。これらのことから、ラサールは逐語訳的な手法を用いて漢訳を行っていることが確認できる。続けて3つ目の連詞として選択された「兼」の考察を行う。

3.1.3. 複数の連詞の使用における第3連詞としての「兼」

この用例は、《嘉音遵囑咤菩薩之語》では1つしか確認できない。以下に提示して考察を行う。

他之威名宣于通吐哩哪他等帶至各病民所有各樣疵痛兼凡有腹中邪魅之病及凡癲症兼凡戰慄之民而他治于等（マタ 4:24）

KJV: And his fame went throughout all Syria: and they brought unto him all sick people that were taken with divers diseases and torments, and those which were possessed with devils, and those which were lunatick, and those that had the palsy; and he healed them.

聖經: 因此厥名聲揚于通西利亞又帶就之諸有病之民・即害各般之疾之患・又懷鬼風者・癲狂者・癱瘓者・而其皆痊伊等。

ここで3つ目の連詞として「兼」が使用されているのが確認できるが、ここでも最初の「兼」、2つ目の「及」に続く3つ目の連詞として「兼」が用いられているのであり、1つ目と2つ目に使用する連詞が「兼」以外で、3つ目に初めて「兼」が出現することはない。

3.2. 「及」

《嘉音遵囑嘸菩薩之語》において最も使用頻度が高い並列を示す連詞は「兼」であり、それは全体の約91%を占めている。この「兼」に続いて多く見られるのは「及」であるが、その数は8例で全体の5%にすぎない。

3.2.1. 第1連詞としての「及」

並列を示す連詞「及」は「兼」と同じく、2項目または2項目以上の並列において、1つ目の連詞（第1連詞）として用いられている。なお、{ }内の字はラサールが追加で書き加えたものである。

(1) 所捉意嚙之等引他于僧綱之屋耆民及儒子所聚之處（マタ 26:57）

KJV: And they that had laid hold on Jesus led him away to Caiaphas the high priest, where the scribes and the elders were assembled.

聖經: 且伊等捉耶穌・解之到加以法崇祭者・彼有書士與老輩集會。

(2) 噫嚙于加利哩啞海中而行也觀而二個兄弟是嚙{名爲}唵咄哩及唵咄喇之兄他等下罾于海中緣他等是漁父（マタ 4:18）

KJV: And Jesus, walking by the sea of Galilee, saw two brethren, Simon called Peter, and Andrew his brother, casting a net into the sea: for they were fishers.

聖經：耶穌行加利利之海邊時觀兩個弟兄西門稱彼多羅同安得路厥昆・拋網入海・蓋伊等爲謂捕漁者。

例(1)と(2)は2項目の並列に「及」が使用されているものであり、この2例のほかにもマタ23:20にも見られる。例(2)の{及}は書き加えられた字であるから、少なくともラサールが意識的に連詞「及」を選択して挿入したものと言える。

(3) 衆人進屋之時他等見此小兒兼他之母囁嚶唧叩首拜他而啟他輩之庫祭他金帛及乳香并麥加 (マタ 2:11)

KJV: And when they were come into the house, they saw the young child with Mary his mother, and fell down, and worshipped him: and when they had opened their treasures, they presented unto him gifts; gold, and frankincense, and myrrh.

聖經：伊等進屋時・觀嬰兒偕其母馬利亞・併叩俯伏拜之。又啟盒・而以金以乳香以香油獻之矣。

例(3)にある「及」は3項目の並列において、第1連詞として使用されているものである。ここでは第2連詞に「并」を使用しているが、「及+并」の用例はこの箇所しかない。

3.2.2. 複数の連詞の使用における第2連詞と第3連詞としての「及」

《嘉音遵囑嘸菩薩之語》では「及」が第1連詞として使用されているだけでなく、第2連詞と第3連詞にも使用されている。

(1) 從他時意嘍起說兼露于其弟子他必往于意路叻啉而忍數事從耆民兼僧綱及儒子受害三日之後必復甦也 (マタ 16:21)

KJV: From that time forth began Jesus to shew unto his disciples, how that he must go unto Jerusalem, and suffer many things of the elders and chief priests and scribes, and be killed, and be raised again the third day.

聖經：自當時以後耶穌示厥徒知其必上耶路撒冷而由老者輩祭者首與書士輩・而受多苦・

致彼殺而於第三日復活也。

(2) 匪度者是從心而出也劊子兼嫖與誘姦及盜並詭証又犯上者 (マタ 15:19)

KJV: For out of the heart proceed evil thoughts, murders, adulteries, fornications, thefts, false witness, blasphemies:

聖經: 盖從心生惡念・即兇殺姦人婦女・偷盜偽證・及妄稱神。

例(1)は第2連詞として使用されているもので、このほかにマタ 18:25、27:56でも確認できる。例(2)は5つの連詞の使用における第3連詞として使用されているもので、この1例のみ見られる。つまり、連詞「及」は第1連詞としての使用が4例、第2連詞と第3連詞としての使用が4例という比率から見ると、「及」の第1連詞としての使用は標準的な用法ではないと言える。

3.3. 「與」

《嘉音遵囑嘸菩薩之語》において、「兼」と「及」に続いて用例が多いのは「與」であり、3例が確認できる。ただ連詞の全体の用例数から見ると約2%にすぎない。

3.3.1. 第1連詞としての「與」

連詞「與」の3例のうち、1つ目の連詞として使用されているのは1例のみである。

(1) 各禪師會齊與各士民會埋同問唵喇吐嘍於那處所當生也 (マタ 2:4)

KJV: And when he had gathered all the chief priests and scribes of the people together, he demanded of them where Christ should be born.

聖經: 其既集諸祭者首與民之書士輩會・詢及伊等以基利士督應生於何處。

例(1)は2項目の並列の連詞に「與」が使用されているものである。第1連詞は「兼」が139例、「及」が4例、「與」が1例で、「並」と「又」は用例なしということを考えると、第1連詞の「與」は例外的な使用であると言える。

3.3.2. 複数の連詞の使用における第2連詞としての「與」

《嘉音遵囑嘍菩薩之語》では、2つの連詞使用における第2連詞と5つの連詞における第2連詞として「與」の全2例が見られる。

(1) 而後他等荅而說之天主那時我等見爾兼渴客裸裡病與牢中而不侍爾也（マタ 25:44）

KJV: Then shall they also answer him, saying, Lord, when saw we thee an hungred, or athirst, or a stranger, or naked, or sick, or in prison, and did not minister unto thee?

聖經: 伊等亦將荅之云・主我等何時見爾饑・或渴或爲旅・或裸・或病・或在監而弗服事爾也。

(2) 匪度者是從心而出也劊子兼嫖與誘姦及盜並誑証又犯上者（マタ 15:19）

KJV: For out of the heart proceed evil thoughts, murders, adulteries, fornications, thefts, false witness, blasphemies:

聖經: 蓋從心生惡念・即兇殺姦人婦女・偷盜偽證・及妄稱神。

例(1)は2つの連詞の使用における第2連詞の用例で、例(2)は5つの連詞における第2連詞としての用例である。連詞「與」は第1連詞よりも第2連詞での使用が多いことから、「及」にまして「與」の第1連詞での使用は標準的でないことが分かる。また、例(1)のマタ 25:44の英語欽定訳は「or」となっているが、ラサールは「餓兼渴客裸裡病與牢中」と連詞と連詞なしを組み合わせた並列として訳出している。

3.4. 「並」

《嘉音遵囑嘍菩薩之語》では、並列を示す連詞「並」の使用は全2例と極めて少数で、連詞全体の約1%でしかない。また、連詞「並」は2つ目の連詞と4つ目の連詞として使用されており、1つ目の第1連詞としての使用は見られない。

(1) 于今僧綱兼耆民並衆紗^{ᠰᠢᠳᠤ}啣^{ᠠᠨᠳᠤ}咄^{ᠤᠯᠤᠰᠤ}求假証逆意^{ᠰᠢᠳᠤ}譎爲丟他於罪案也（マタ 26:59）

KJV: Now the chief priests, and elders, and all the council, sought false witness against Jesus, to put him to death;

聖經: 夫祭者首與老輩及諸公議者尋偽證見告耶穌・欲殺之。

(2) 匪度者是從心而出也劊子兼嫖與誘姦及盜並誑証又犯上者 (マタ 15:19)

KJV: For out of the heart proceed evil thoughts, murders, adulteries, fornications, thefts, false witness, blasphemies:

聖經: 盖從心生惡念・即兇殺姦人婦女・偷盜偽證・及妄稱神。

例(1)は3項目の並列の第2連詞として、例(2)は6項目の並列の第4連詞として「並」が使用されている。例(1)では「兼+並」の組合せで、例(2)は「兼+與+及+並+又」の組合せである。特に例(2)の連詞の使用順序と「兼、與、及」の第1連詞として使用を考えると、連詞「並」は「兼、與、及」の次に位置づけられる。

3.5. 「又」

《嘉音遵囑嘸菩薩之語》では連詞として「又」が使用されているのは1例のみで、全体の約1%でしかない。

匪度者是從心而出也劊子兼嫖與誘姦及盜並誑証又犯上者 (マタ 15:19)

KJV: For out of the heart proceed evil thoughts, murders, adulteries, fornications, thefts, false witness, blasphemies:

聖經: 盖從心生惡念・即兇殺姦人婦女・偷盜偽證・及妄稱神。

ここでは6項目の並列の最後の第5連詞として「又」が使用されている。英語欽定訳ではすべて「,」で並列され、《聖經》では「(連詞なし) + (・) + (・及)」となっている。用例の少なさから見ると、連詞として「又」を使用するのはかなり例外的な用法で、各種の連詞を使い切った場合に用いるという位置づけとなっている。

おわりに

これまでの考察により、《嘉音遵囑嘸菩薩之語》における並列を示す連詞の使用にかかる優先順序は、中国語母語話者の文献での使用傾向とは異なることが分かった。このことは、ラサールの中国語が彼独自の中国語観に基づいていることを示唆している。その特徴として次のようなものが挙げられる。

並列表現において連詞を1つだけ使用する場合は、おおよそ「兼」を使用するが、「及」

または「與」を用いることもできる。ただし、その優先使用順序は「兼>及>與」となっている。また並列表現において複数の連詞を使用する場合、第1連詞には「兼」を使用し、その後の連詞には「兼」、「及」、「與」、「並」を使用するが、「又」は使用しない。そして、その優先順序はおおよそ「兼+兼>兼+及>兼+與>兼+並」となる。これは1つのみの連詞を用いる場合の「兼>及>與」の優先順序と重なっている。さらに、並列表現において3つの連詞を使用する場合では「兼+及+兼」の順序と組合せが見られ、また5つの連詞の使用では「兼+與+及+並+又」の順序と組合せが存在している。

このように本論によって、ラサールの中国語における並列を示す連詞は「兼」を主とするが、「及」や「與」も使用可能であること、また「並」と「又」は、「兼、及、與」を使用して不足が生じた場合に補助的に用いる連詞であるということが明らかとなった。また、「兼」の連続使用は2つまでで、3つ以上を連続して使用することがないことも確認された。

最後に、本稿は2019年度からの日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(C)「非中国語圏で成立した最早期のプロテスタント系漢訳聖書の訳語・文体形成に関する研究」(課題番号19K00570)の成果の一部であることを付言しておく。

注

- 1)ラサールの生没年について、吳淳邦・李學・黎子鵬主編2018のxvii頁では1781-c.1835としている。また吳義雄2022の291頁では、ラサールが澳門からインドに渡った年を1802年としている。
- 2) John R. Hykes1916の2頁を参照。
- 3)牛島1971の265-266頁を参照。
- 4)太田1988の79-80頁を参照。
- 5)牛島1971の265-266頁および太田1988の79-80頁を参照。

参考文献

[聖書]

- J. Lassar. 1807. 《嘉音遵囑嘸菩薩之語》。Serampore。
J. Marshman & J. Lassar. 1810. 《此嘉音由啣嘸所著》。Serampore。
J. Marshman & J. Lassar. 1822. 《聖經》。Serampore。
R. Morrison. 1814. 《新遺詔書》。

1852. 《新約全書》。上海：江蘇松江上海墨海書館。（文理代表訳）
1870. *The Holy Bible, containing the Old and New Testaments*. The British and Foreign Bible Society. London. （英語欽定訳）
1899. *The Gospel According to St. Mark in English and Cantonese* 馬可福音中西字. American Presbyterian Mission Press. Shanghai. （広東語訳）
1931. *The New Testament, Canton Revised Version and American Standard Revision* 新約全書中西字. The American Bible Society. Shanghai. （広東語訳）
- [その他]
- J. Marshaman 1814. 中國言法 *Elements of Chinese Grammar*. The Mission Press. Serampore.
- Robert Morrison 1815. *A Grammar of the Chinese Language* 通用漢言之法. The Mission Press. Serampore.
- R. Morrison 1822. *A Dictionary of the Chinese Language, in three parts., part the third, consisting of English and Chinese*. Black, Parbury, and Allen. London.
- R. Morrison 1828. *A Vocabulary of the Canton Dialect, Part. III. Chinese Word and Phrases*. The Honorable East India Company's Press. Macao.
- S. Wells Williams 1844. *An English and Chinese Vocabulary, in the court dialect*. The Office of the Chinese Repository. Macao.
- W. H. Medhurst 1847. *English and Chinese Dictionary*. The Mission Press. Shanghai.
- W. Lobscheid 1866. *English and Chinese Dictionary, with the Punti and Mandarin Pronunciation. Part I*. The “Daily Press” Office. Hong Kong.
- John R. Hykes 1916. *Translations of the Scriptures into the language of China and her Dependencies*. American Bible Society. New York.
- 牛島徳次 1971. 『漢語文法論（中古編）』。東京：大修館書店。
- 呂叔湘 1978. 《文言虛字》。上海：上海教育出版社。
- 香坂順一 1983. 『白話語彙の研究』。東京：光生館。
- 王引之 1984. 《經傳釋詞》。長沙：岳麓書社。
- 太田辰夫 1988. 『中国語史通考』。東京：白帝社。
- 香坂順一 1987. 『《水滸》語彙の研究』。東京：光生館。
- 羅貫中 1993. 《三国演义》。北京：北京十月文艺出版社。
- 小川環・金田純一郎訳 1994. 『完訳三国志（六）』（岩波文庫）。東京：岩波書店。

- 永井崇弘 1996. 『中国語の空間概念－右と左の空間認知モデルについて－』, 『関西大学中国文学会紀要』第 17 号: 85–98 頁。
- 马建忠 1998. 《马氏文通》。北京: 商务印书馆。
- 魏維新·克一 1998. 《附錄 助語辭補》, 《助語辭集注》: 139–161 頁。北京: 中華書局。
- 中国社会科学院语言研究所古代汉语研究室编 2000. 《古代汉语虚词词典》。北京: 商务印书馆。
- 袁仁林(解惠全 注) 2004. 《虚字說》。北京: 中華書局。
- 劉淇(章錫琛 校注) 2004. 《助字辨略》。北京: 中華書局。
- 楊樹達 2004. 《詞詮》。北京: 中華書局。
- Richard Palmer, Michelle P. Brown 2010. *Lambeth Palace Library Treasures from the Collection of the Archbishops of Canterbury*. Scala Publishers Ltd. London.
- 吳淳邦·李學·黎子鵬主編 2018. 《清代基督教小說選注·上卷》。台北: 中央研究院中國文哲研究所。
- 永井崇弘 2018. 《关于马礼逊与马士曼所依据的新约圣经希腊文本》, 『福井大学教育·人文社会系部門紀要』第 2 号: 1–9 頁。
- 永井崇弘 2020. 《关于 19 世纪初在印度翻译的汉译圣经及其译者和底本-拉沙的马太福音汉译本-》, 『福井大学教育·人文社会系部門紀要』第 4 号: 1–12 頁。
- 永井崇弘 2021a. 《關於 1807 年拉沙漢譯的《嘉音遵囑嘸菩薩之語》中的首見漢字》, 『関西大学中国文学会紀要』第 42 号: 47–66 頁。
- 永井崇弘 2021b. 《关于在印度汉译的新教最早期圣经中基督教的词语—1807 年拉沙汉译的《嘉音遵囑嘸菩薩之語》为中心—》, 『文化交渉と言語接触』(内田慶市教授退職記念論文集): 213–232 頁。東京: 東方書店。
- 永井崇弘·塩山正純 2021. 『ラサール訳『嘉音遵囑嘸菩薩之語』—研究と影印・翻刻—』(愛知大学国研叢書第 4 期第 5 冊)。名古屋: あるむ。
- 永井崇弘 2022. 《关于拉沙汉译《嘉音遵囑嘸菩薩之語》“的”与“了”的用法》, 『福井大学教育·人文社会系部門紀要』第 6 号: 1–10 頁。
- 吴义雄 2022. 《在宗教与世俗之间-新教传教士在华南沿海的早期活动(1807-1851)》。北京: 社会科学文献出版社。

